

「健康マイレージ制度」の創設について

佐久間 儀郎



〔質問〕日頃の健康づくりの取り組みをポイント化し、健康づくりへの積極的な参加を誘導する仕組みとして、健康マイレージ制度は検討に値すると考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】この制度は、「健康づくりのきっかけ」であると考ええる。しかし、本来の目的とは少し離れてきており、ポイントをためて商品券と交換するところなどが逆に注目されていると感じている。

本市では、保健師・栄養士による各地区の健康教育、保健栄養教室や健康相談を実施しながら、各種健康事業を進めていきたい。

そのため、現時点では健康マイレージ制度の創設は考えていない。

◎「生涯スポーツや地域スポーツの推進」について

〔質問〕スポーツは心身の発達、健康の維持・増進、そして地域活性化に大きな役割を果たすと考えられる。

そこで、スポーツ推進委員と連携して、地域に根ざした市民総スポーツの現状について伺う。

〔答弁〕【教育長】スポーツ推進委員との連携により、ふるさとまつりやシャフルボード大会、市民綱引き大会などを開催している。

また、中央公民館の講座での講師、公民館まつりの一環でニュースポーツ講習会の開催など市民の健康維持の増進を図っている。

〔質問〕総合型地域スポーツクラブの創設に向けた現状について伺う。

〔答弁〕【教育長】今年度に宮城県体育協会から指導を受け、運営母体と考えられる団体と協議をしている。年度内のクラブ成立に向けた検討委員会の設置を行いたい。

〔質問〕白石市体育協会を中心とするスポーツ団体及び指導者の育成、スポーツ人口拡大の現状について伺う。

〔答弁〕【教育長】人口減少、少子化・高齢化が急速に進行する中で、平成25年度と同様の継続的な事業を推進しており、横ばいあるいは微増の傾向にある。

スポーツ環境を維持しながら、さらにスポーツ人口の拡大を目指していきたい。

【その他の質問】

◎児童生徒の「問題行動調査」について

蔵王山の噴火に対する備えについて

四 竈 英 夫



〔質問〕去る9月27日に御嶽山が噴火し、多くの被害が発生した。蔵王山噴火の可能性について、調査と対策に関する検討委員会が開催されたことだが、その概要を伺う。

〔答弁〕【市長】御嶽山の噴火を受け、12月11日に、東北地方整備局主催で火災噴火緊急減災防災計画検討委員会が開催された。

その内容は、ハザードマップの基礎資料となる噴火のシナリオ、土石流等の被害想定案などが示された。その会議で出された意見等を反映させ、最終計画案が、平成27年3月の委員会で審議され、決定される予定である。

〔質問〕白石市の被害想定はどの程度なのか。

〔答弁〕【市長】会議において、現時点で想定される降灰被害は、白石川北側の山間部で約10cm、市街地で約1cmである。

〔質問〕今後の対策は。

〔答弁〕【市長】鹿兒島市の桜島の場合は、降灰の除去は各自で行い、回収を行政が行っている。先進事例を見ながら対応策を検討する。

◎農業経営について

〔質問〕平成26年産米価は、60kg当り8千400円の仮渡金で低価格であった。農業を取巻く情勢が厳しい中で、農家に対してどのような対策を講じていくのか。

〔答弁〕【市長】米価下落の要因は、需給のバランスが崩れた結果で

あると考える。これは全国的な問題であり、東北市長会や宮城県市長会の一一致した意見として、米価下落対策と稲作経営体質強化を図るように、国に対して要望書を提出した。

〔質問〕肥育素牛の価値が続いている。優良素牛・繁殖素牛を導入する場合、経費の一部助成をして、優良繁殖牛の基盤づくりを図る考えはないのか。

〔答弁〕【市長】市では、優良繁殖雌牛保留奨励事業を実施しており、和牛改良組合に対し、1頭当り5万円の助成金を出している。

〔質問〕燃料代の高騰も農業経営を圧迫している。今回、免税軽油制度は継続されたが、このような制度の継続の働きかけが今後も必要と考えるがいかがか。

〔答弁〕【市長】必要な制度であれば、その継続を関係機関に働きかけていく。